

## 書籍の自動組版について

2006年7月6日

アンテナハウス株式会社

## 書籍の制作・現状

- 書籍誌面レイアウトは、雑誌と比べて単純。
- 目次、索引、見出し番号、図番号、参照ページなどの読者ナビゲーション補助機能を用意しなければならず作業が大変。
- 特にシリーズものではコンテンツが異なり、レイアウトが類似になる。1品制作ではない。
- 出版部数は減少する傾向。
- 新しい技術などの紹介に書籍の役割は不可欠。機動的な出版体制が必要。

## 書籍DTPの問題点

- QuarkやInDesignなどDTPソフトで、人手・時間をかけて、対話的制作をする意義があるのでしょうか？
- 制作工程を自動化、短縮しコストダウンできない？
- QuarkやInDesignのようなDTPソフトで制作されてしまうと、著者が自由に改訂できなくなる。内容を少し修正するにもDTPソフトとオペレータが必要。
- コンテンツとレイアウト混在のため両方とも流用が困難になる。

DTPをやめて自動組版で制作したらどうでしょうか？

## 書籍自動組版の二つの方法

- 20世紀: 書籍自動組版というとTeX
- 21世紀: XSL-FO
- TeX vs XSL-FO
  - TeXは、コンテンツの中にコマンドを書き込んでしまうため、コンテンツとレイアウトが混然となる
  - XML→XSL-FOを使うとコンテンツとレイアウトが完全分離となる

## 書籍の自動組版(例)

- Prentice Hall (US)
  - Goldfarbシリーズ
  - 数年前からXSL-FOで組版している
- O' Reilly (US)
  - Safari Booksは、XSL-FOで組版している(未確認)? O' Reillyの書籍(PDF)サンプルはFrameMakerで制作しているものが多い。
- その他
  - ドイツ語の書籍の例

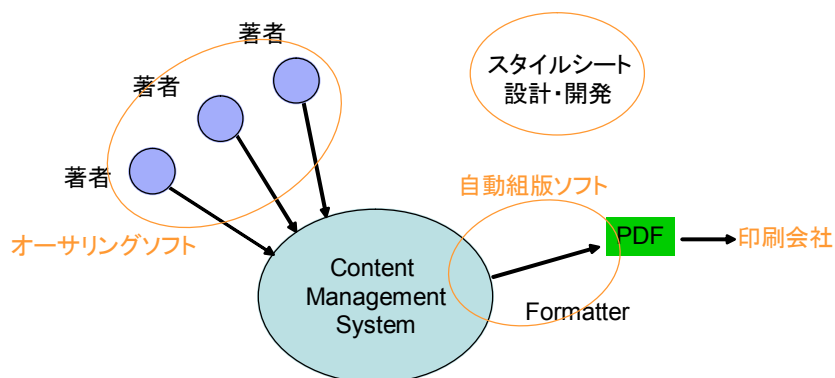


## 日本の例

- 医薬品ハンドブックなどのデータ量の多い書籍ではXSL-FOを使っている例がある。
- 東京法経学院の「**電脳六法**」(六法全書)

## システム

ワークフロー、システムを変えなければならない



## オーサリング

- コンテンツのXML化
  - マークアップ方法設計
- XMLコンテンツのオーサリング・ツール
  - XMLエディタ  
(使いこなせない著者が多い?)
  - Goldfarbシリーズの例は、著者が皆XMLの専門家なので、XMLのオーサリングに困難がない
  - Microsoft Wordによるオーサリングシステムはひとつの解決策

## スタイルシートの開発

- スタイルシートの役割
  - レイアウト指定
  - 目次、索引自動作成、番号付け、参照関係の自動解決
- スタイルシートの開発
  - 専門家による手作業
  - レイアウトを変更するとき問題になる
  - レイアウト毎にスタイルシートを作り変えなくても良いようにパターン化し、パラメータで設定できるようにする
  - スタイルシート開発ツール(どこまでできるか?)

## 組版とPDF化

- XSLT
  - XML + スタイルシート → XSL-FO
- XSL Formatter
  - XSL-FO → PDF